

香川県農業・農村審議会議事概要

- 1 日 時：平成 31 年 3 月 19 日（火） 13 時 30 分～15 時
- 2 場 所：ルポール讃岐 大ホール
- 3 出席者：赤松委員、大西委員、大山委員、香川委員、木村委員、次田委員、佃委員、橋田委員、深井委員、松本委員、三笠委員、皆川委員、矢野委員（五十音順）
- 4 議 題：香川県農業・農村基本計画の進捗状況について

【議事要旨】

事務局から、香川県農業・農村基本計画における平成 30 年度の進捗状況について説明を行った後、審議を行った。

主な意見は次のとおり。

○委員

それぞれの指標に対しての評価方法について、進捗率が 60%以上を「A」判定、60%未満で 40%以上を「B」、40%未満で 0%超を「C」、0%以下を「D」とするという説明をいただいたが、全ての指標において同じ方法で評価したものなのか。

→（事務局）

- ・ 5年後の目標に対して、3年後となる 30 年度にどの程度達成したかを機械的にあてはめたものであり、全ての指標において同じ方法で評価している。

○委員

担い手への農地利用集積面積率については、今回、D評価であったが、今後、どのような対策を行っていくのか伺いたい。

→（事務局）

- ・ 本県では、JA一支店一農場方式での特定農業団体によって農地集積を推進してきたところであるが、もう少し小さな単位できちんと話し合いを進め、集落営農法人を育てていくとともに、多面的機能の維持等と一体となった集落営農の推進や、農地中間管理事業の活用等により、担い手から一旦離れた農地についても集積を図ってまいりたい。

○委員

集落営農をしている方は高齢化していると思うが、何歳くらいの方が行っているのか伺いたい。

→ (事務局)

- ・ 高齢化により現状維持が難しい地域もあることから、集落営農組織どうしの連携を促進し、広域で担い手を確保する取組みを促進することとしている。平均年齢については、独自に調査したところ、70.2歳と70歳を超えている状況である。

○委員

「『香川らしい』成長産業化ビジネスプラン提案事業」により、6次産業化を推進するとあるが、「香川らしい」とは、どのようなことか。

→ (事務局)

- ・ 地域に根ざした取組みであるとか、本県の農業や農産物の特徴を活かした取組みであるとか等を評価して支援していくものである。

○委員

「地産来消」という言葉があるが、外から来られた方に、香川の農産物をPRするためには、実際に食べてもらうことが重要であると思う。

→ (事務局)

- ・ さぬきの食材を使った飲食店を「さぬきの食提供店」として登録しており、こうした飲食店の情報提供するための冊子を隔年で発行している。瀬戸内国際芸術祭等の機会を捉えて、県産農産物をアピールできる体制を整えてまいりたい。

○委員

土づくりに重点を置いていくとのことであるが、自身も堆肥を作っているので協力していきたい。

香川県で生産されたものは、どれくらいが香川県で消費されるのか教えて欲しい。

新規就農者から農地の確保が難しいという話を聞いた。農地の情報を容易に得られるようしてもらいたい。

防疫対策として、高松空港での消毒マット設置などに取り組んでももらいたい。

→ (事務局)

- ・ 農業の基本である土づくりをしっかりとやっていこうという中で、来年度の事業で耕畜連携のモデル地区を作って進めていくこととしている。
- ・ 新規就農者の農地の確保については、香川県農地機構では、新規就農者の農地を優先的に確保する方針であり、登録いただいた遊休農地をもとに、各市町に配置されている24名の農地集積専門員が相談活動にあたっている。来年度はさらに増員予定であるので、まずはこうしたところに御相談いただきたい。

- ・ 県内の地産地消の状況については、「かがわ地産地消推進会議」の中で対策を議論しているところであるが、どの程度、地産地消が進んでいるのかの具体的な数値については、流通形態が複雑多様化している中で、全ての品目の県内での消費を把握することは困難であるのが実態である。
- ・ 高松空港での検疫状況について、海外からのゲートでは消毒マットを設置している。豚コレラの発生に伴い、持ち込み品についての検疫を強化していると聞いている。県としても、発生に備えて、車両用消毒マットを備蓄している。

○委員

鳥獣害対策として捕獲されたイノシシやシカは、ほとんどが捨てられていると聞いている。しかし、資源として安心して食べられるということを伝えてもらいたい。鳥獣害対策は地域が担うところが大きいので、地域でできることを支援していただければ有り難い。

→ (事務局)

- ・ 鳥獣による農作物被害額は少しずつ減ってきているものの、範囲は広域化してきている。こうした中で、年間 1 万頭以上のイノシシを捕獲しているが、捕獲個体の 8 割程度は埋設処理されている。捕獲個体を有効利用しようとする取組みについては、先進地調査を行っており、需要を拡大するための PR についても関係者と一緒になって進めてまいりたい。

○委員

本日、「お家でジビエ」というリーフレットを持参した。消費者の方に本県にもジビエがあるということを知ってもらうために作成した。御覧いただきたい。

○委員

補助事業に規模拡大の要件が入っていることが多いが、規模拡大するだけでなく、手間を掛けて良いものを生産する農業者を支援するという方向性も考えてもらいたい。

市場を通すのではなく、直接販売する農家が増えてきているように思う。県と市場が一緒になって販促活動を行ってもらいたい。

→ (事務局)

- ・ 県産農産物は、その品質の高さで、県内外で高い評価を得ており、高品質化は施策の重要な柱であり、今後とも必要な支援を行うなど積極的に推進してまいりたい。
- ・ 市場を通さない契約栽培が増えているが、市場の果たす役割についても市場とも話し合いを行ってまいりたい。

○委員

オリーブ牛のようなブランド農産物だけでなく、県民が県産農産物を消費しやすい取組みも考えて欲しい。

○委員

さぬきの夢の状況を教えて欲しい。

→（事務局）

- ・ さぬきの夢 2009 の 30 年産の作付面積は 1,890ha となっており、さぬきの夢 2000 以降で最大となっている。同じく生産量についても 6,050 t と最大となっている。31 年産については 1,936ha と拡大傾向である。業界団体からも拡大の要望をもらっており、こうした要望に応えられるよう推進してまいりたい。

○委員

ため池の総合的な防災・減災対策を推進するとのことであるが、県として独自の取組みがあれば教えて欲しい。

→（事務局）

- ・ 老朽ため池の整備箇所は 30 年度末で 3,506 か所であり、全ため池 14,000 余のうち箇所数は 25%弱であるものの、貯水量では 88%の整備となっている。今後も老朽ため池の整備を進めるとともに、ため池の耐震化や、中小規模ため池の防災対策についても積極的に取り組んでまいりたい。

○委員

新規就農者が増えているのはうれしいことであるが、離農する人の人数が分かれば教えてもらいたい。

→（事務局）

- ・ 新規就農者数については、普及センターや農業次世代人材投資資金利用者等の情報から把握している。離農者については、全てを把握しているわけではないが、農業次世代人材投資資金を利用した方についてはフォローしている。

○会長

事務局には、本日の議論を参考に、香川県農業・農村基本計画の目標の達成に向けて、本県農業・農村のより一層の振興に努めてもらいたい。

「以上」